

意見陳述書

控訴人 高松 賢

1 はじめに

控訴人の高松賢です。現在、私は臼杵市野津町で暮らしております。妻と娘、息子の4人家族です。

私は埼玉県に生まれ育ち、埼玉県内の高校を卒業し、東京にある専門学校を卒業しました。その後、民間の会社勤めなどを経て宇宙航空研究開発機構にも勤めておりました。地球環境問題の講演会に参加したことをきっかけに、自給的な暮らしを中心とした農業をしてゆきたいと思うようになりました。10年間務めた宇宙航空研究開発機構を退職し、福島県内の農家で農業研修を受けました。その後、栃木県茂木町で新規就農しました。

栃木では、耕さず、草や虫を敵とせず、農薬や肥料を用いない、トラクターなどの機械を使わず、鍬、鎌、スコップなど昔ながらの農具と身一つあればできる自然農というやり方で農業をしておりました。お米は自分で作った稻の苗を手植え、手刈り、天日干したものを主に自給分として作りました。野菜は少量多品目で10種類ほどの野菜をセットにして宅配便で送ったり、東京のレストランなどに出荷するなどして生計を立てていました。子どもたちも土に触れ、自然環境豊かなところで育ち、このままこの場所で生きてゆくつもりでいました。

2 原発事故

そんなところで、まともに立っていられないほどの大きな揺れに遭いました。その地震の時、私は自分の家が見える畑にいました。妻が子ども二人を連れて家の外に出てくるのが見えたため、もし地震で家が壊れたりしても大丈夫だと思い、少しだけ安心しました。最初の強い揺れが収まるのを待ってから、妻と子どもたちのいる家の前まで戻りました。その後もかなり大きな余震が何度も起きて、

これは大変なことが起きたのだと思いました。この時、多分自分たちの住んでいる栃木が一番地震が強かったのではなく、東京のあたりか、もしくは東北の方がもっと強く揺れたのではないかと思いました。もし東北がもっと強い地震に襲われたのであれば、福島の原発が大丈夫なのかと頭をよぎりました。

確か地震の後、すぐに停電となつたので、車でラジオを聞いて、何が起こっているのか知ろうとしました。ラジオでは、地震が起きたことだけで、まだそれ以上の詳しいことはわからずになりました。しばらくしてから、津波が起つたことや福島の原発が危ないというようなニュースが流れました。

私の住んでいたところは、福島原発から 100 km 強位しか離れていない所でした。チェルノブイリ原発事故のように原子炉が吹き飛び放射能が環境中に出てしまつたら、このままこの場所にいる事は危ないのではないかと不安がありました。少しでも原発から離れたほうが良いのではないかと思い、福島原発から 200 km 以上離れている実家のある埼玉に移動しました。

3 さらなる避難、移住

埼玉にいる時に原発が爆発しました。爆発した映像をテレビのニュースで見るのは本当に衝撃的で、今でも恐ろしい映像が目に焼き付いています。原発が爆発したこと、風向きによっては放射能が埼玉までくるかもしれないと思いました。ここにいるのも安全であるかどうかがわからぬでいました。その後、関東の野菜の一部から国の基準値を超える放射能を含んだ野菜が検出されました。いくつかの地域の数品目の野菜が出荷停止になったとのニュースが流れました。私はこのニュースを見て、この場所ではもう農業ができなくなるかもしれないと思ったと同時に、野菜から放射性物質が検出されたという事は関東にも大量の放射能が降り注いでしまつたことを知りました。埼玉にいることも危ないのではないかと思い、妻と子どもたちと、距離的に遠い妻の姉のいる北海道に一時的に避難しました。

北海道にいる時に、東京の水道水から放射性ヨウ素が検出されたというニュー

スが流れ、状況は悪くなる一方でした。不安を抱えたまま栃木の家に戻る事は考えられませんでした。特に、まだ幼かった子どもたちの事が心配だったため、西日本に移住することを決めました。

日本地図を見ますと、日本中どこにでも原発があり、今後他の原発でも福島原発と同じような事故が起こる可能性を考えると移住先を決めるのが難しかったです。結局、比較的どの原発からも少し距離のある岡山に移住しようと決めました。岡山への移住は原発事故直後、すぐにでもまた農業を再開したいという思いもありました。事故直後に慌てて決めたため、移住後にわかったことですが、岡山の畑はもともと田んぼで重粘土質のところが多い土地でした。農地の状況などわからませんでした。そういうところを畑として使っていましたので、水はけが悪く、自分のやり方では、野菜づくりが難しい土地でした。

そのため、自分のやり方で農業ができそうなよい土地を求めて、再度西日本で移住先を探しました。大分の土が栃木の土と似ていて、畑もたくさんあり、また自然環境豊かであることもあって、大変気に入りました。5年住んだ岡山を後にして、大分に移住し、10年目を迎えたところです。

4 終わらない事故

福島原発事故から15年近く経ちました。現在は一見、原発事故などなかったかのように、以前と同じような日常が流れているように思えます。ですが、福島原発に目を向けてみると、帰還困難区域が残り避難を強いられている人たちがまだまだ多くいます。貯蔵しきれなくなった汚染水は海洋放出され、除染土は県外に、原発そのものは廃炉への道のりは遠いことなど、現実は何も終わっていません。

福島原発事故が起こる前までは、気に入った土地に住み、田畠に立ち、そこで暮らしてゆくことが当たり前のようにできていました。しかし、いざ原発事故が起きると田畠の土や野菜も汚染され、農業ができなくなるかもしれません。人間が住み続けられるかどうかかもしれません。大分は福島原発事故からの避難者は少ないと思いますが、最初に移住した岡山では、福島県からだけでなく、関東各

地から移住してきた人が沢山いました。岡山に関東からの自主避難者が多かったのは、私たち家族と同じ理由で他の原発からも比較的遠かったこと、新幹線が通っていたため、関東方面からのアクセスがよかつたことなどが挙げられます。岡山で出会った人々は、地震や津波の影響で移住したわけではなく、みな原発事故の放射能を恐れてでした。原発が事故を起こせば、30km圏内だけに影響が出るわけではありません。実際、福島原発事故では関東に大量な放射能がきました。そして、その放射能の環境への影響、人体への影響がこの先どのような形で出てくるか分かりません。

5 想定外で仕方がないことにはできない

今年、トカラ列島近海での地震活動が活発になりました。南海トラフ地震など大きな地震がいつ起こるか気が気でありません。近年は地震以外にも豪雨など自然災害が多く、想像もつかない様な事が起こります。自然災害だけでも大変ですが、自然災害は受け入れるしかありません。しかし、自然災害だけでなく、それがきっかけで原発事故が起きました。これは到底受け入れられるものではありません。原発事故が想定外という言葉で、仕方のない事にはできないと思いますし、想定外の事が起こりうる現在、原発を稼働することはあり得ません。

先日、玄海原発で原子力防災訓練が行われたというニュースを見ました。内容は、県内で発生した地震の影響で玄海原発の原子炉の冷却水が漏れてすべての電源喪失、原子炉の炉心を冷却するすべての機能を喪失した想定のもとのことでした。このような過酷な事故は想定外でなく、原発を動かしている側も想定の範囲以内と理解していることがわかりました。玄海原発に限らず、伊方原発でも同じことだと思います。こんな最悪の事態が想定できているにもかかわらず、原発を動かすことができるとは、狂気の沙汰としか思えません。

6 おわりに

大分から、伊方原発は目と鼻の先にあるのでとても心配です。ひとたび事故が起きれば、県境を超え、広範囲に放射能がばらまかれてしまう事は、福島原発事

故を見れば明らかです。未来、いのち、健康を考えたら、原発を動かすことなどもってのほかです。これ以上日本で原発事故を起こさないためにも、まずは、伊方原発の稼働を停止していただきたいです。

以上